

## 油山の宝物さがし～川と田～

夏、森にはいるとひんやりとした空気にほっとします。それは木々が根から吸い上げた水や葉で受けた雨・露を蒸発させているから。いつも天然の打ち水の中にいるようなもの。

こうやって森はたくさんの水を奪う一方、水を少しずつ川に流してくれます。森会にはいった頃レンジャーが水の森を通りながら「油山の溪流は大雨のときも晴れが続く時も流れる水の量はかわらないですよ」と話してくれたのを思い出します。

水道のない時代、油山から流れ出る水は周囲の村にとってどんなに大切なものだったでしょうか。

「筑前國續風土記付録」（1798年頃成立）には河水記という項で筑前の国にある川とそれが潤す田について記しています。

今の樋井川については「田嶋川：檜原村より出、檜原村・上長尾村・下長尾村・田嶋村を経て、鳥飼村の下にて海に入る。東油山村より出る水は、塘（つつみ）村・片江村を経て田嶋川にする。この川水をそそぐ田数263町3反4

畝28歩、村数井堰手数左のことし」とあります。続けて流域の村ごとに堰の数、各堰が潤す田の広さが書かれています。田んぼと水利のシステムは切っても切れないことを感じます。

干ばつで川の水が少なくなる時もあり明治27年に田嶋村が最下流の鳥飼村に水を分けた美談があります。（「現代語版田島沿革史」田島財産区刊）また洪水の記録も少なからずあります。

そもそも樋井川と言う名前は桧原にて桧で樋をつくり川の上に水を通して田を灌漑したことから名前が出来たという言い伝えがあるように油山と川・田は深い繋がりがあります。

この号が出た頃終了していますが3/13は会活動で柏原から友泉亭まで歩く予定です。昔の川や流域を想像しながら歩くのが楽しみです。（柴戸）

